



担い手通信



JA bank Mic

Topic

今月の話題

3系統 特徴確認

「これが雑草稲

はびこる前に対策を

農研機構など

農 研機構・中央農業研究センターなどの研究グループは、国内で増えている雑草稲に3系統あることを突き止めました。どれも玄米が赤くなりますが、もみの色や玄米の形、草姿などが系統ごとに異なり、雑草稲を発見する手掛かりになります。雑草稲は気付かずには防除が遅れる例が多く、農研機構・中央農業研究センターでは特徴を知らせ、農家の早期対策を促しています。

雑草稲は、2000年代に長野県などで被害が表面化し、16年までに全国21県に拡大。水田に侵入すると数年でまん延し、除草剤や手作業での防除が必要になります。直播(ちよくは)栽培で多いとされてきました。が、移植栽培でも発生していることが分かり、多くの都道府県で警戒を強めています。

研究グループは、雑草稲

の主な発生エリアである東北、関東、甲信越、東海、近畿で163株の雑草稲を採集。DNAで類縁関係を調べると、三つの系統に分かれます。

一つ目の系統は、もみの色が黒っぽい、草丈は「コシヒカリ」より高く、熟期はやや遅くなります。分布は広く全エリアで見つかっています。二つ目の系統は、もみの色は薄く草丈が高く、熟期はやや

早く、東北と甲信越で見つかりました。三つ目の系統は、もみの色はさまざまですが、玄米の胴が幅広いのが共通します。熟期は早く、関東で見つかりました。

農研機構・中央農業研究



通常の「コシヒカリ」(左)と雑草稲。雑草稲は(左から)もみの黒っぽい系統、色の薄い系統、玄米の胴が幅広い系統(農研機構提供)

数字でみえる 三重県の農と食

1,107億円

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

農業産出額

三重県の平成28年の農業産出額は、東海農政局「平成28年 農業産出額及び生産農業所得(東海農業地域)」によると、1,107億円で前年に比べ1.5%増加しました。これは、米などの部門において産出額が増加したためです。産出額の構成を見ると、米が全体の24%、鶏が18%、野菜が14%で、この3部門で県全体の56%を占めています。

センターは「特徴が当てはまる稲を見つけたら雑草稲の可能性が高い。普及指導機関などに相談し、はびこる前に対策を」と呼び掛けている。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

浸出時間が短かく高品質な緑茶を発表

三 重県農業研究所は、南勢地域の茶の特徴を生かし、短時間の浸出でも水色が濃く、強いうまみと渋味がバランス良く出る緑茶の生産方法を発表しました。淹れ易く、小売販売に適した高品質な茶が実現できるとしています。

うまみ成分を高めるため、生育段階に応じて遮光率を高める二段階被覆技術を導入。蒸程度はかぶせ茶よりやや進め、深蒸し煎茶よりは浅くし、粗揉機後半で風量を下げ、強く揉みこみます。

通常品と比べると、ホットの条件(茶10g、90℃、35秒)で、急須で浸出すると、うまみ成分のアミノ酸、渋味成分のタンニンともに多く出て、**図1**おり、水色も濃くなります。アイスの条件(茶10g、20℃、30秒)で、茶を入れたペットボトルをかき混ぜると、こちら浸出性に優れ、**図2**、うまみ・渋味成分のバランスがとれています。短時間で提供できることから、対面販売向きの高品質の商品として期待されています。

図1 ホットの条件の浸出性

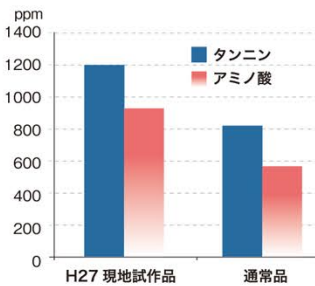
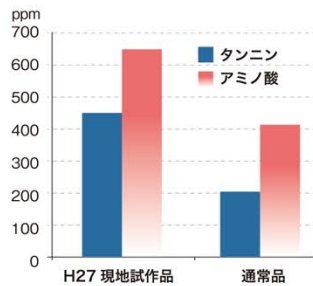


図2 アイスの条件の浸出性



お問い合わせ先 三重県農業研究所 茶業研究課 ☎0595-82-3125

JAみえきた

「桑名特産たけのこ」出番 表年で600トンの計画

JAみえきたは2月5日、桑名市の桑名ライスセンター、深谷支店、多度営農センターで今年初の「桑名特産たけのこ」の集荷を行った。今年度は桑名では多度地区以外は表年となっており、昨年の2倍の約600トンの出荷量を見込む。出荷最盛期には県内外の11市場に出荷する。「桑名特産たけのこ」は品質管理の良い商品を供給している点を評価され、昨年11月に福井市長から感謝状を贈呈された。

(2018/2/9 ワイド2東海)

JA鈴鹿

売れる農業へ 販路開拓へマーケティング手法紹介

JA鈴鹿は2月上旬、管内の農家を対象に農業者セミナーを本店で開いた。「売れる農業を目指すために」をテーマに、販路開拓に向けた営業・商談・マーケティング手法を紹介。管内で米、茶、植木、野菜の生産に取り組む20~70代の農家約40人が参加した。講師に、流通経済研究所で流通・開発を専門に研究する折笠俊輔氏を招き、市場や消費者の立場で「ニーズ」や「物の価値」を考えるマーケットインの考え方を、事例を交えながら説明した。

(2018/2/14 ワイド2東海)

JA津安芸

みえJA農産物鑑定大会 団体は津安芸に栄冠

JA全農みえ米穀課が事務局を務める、みえJA農産物検査協議会は2月6日、津市のJA三重ビルで第14回みえJA農産物鑑定大会を開いた。優勝には、団体の部がJA津安芸、個人の部は同JA河芸営農センターの増田栄作さんが輝いた。個人の部第2位にJAいがほくぶ農産販売課の内田伊織さん。県内全12JAから47人が参加し、水稲うるち玄米、水稲もち玄米、普通小麦、普通大粒大豆の試料計50点の品位等級や品種を鑑定し、技術を競い合った。

(2018/2/8 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します!

JAバンク利子補給制度のご案内

最大年1% 利子補給

JAバンクでは、農業者のみなさまに対して、借入負担の一部を軽減することにより、農業経営の安定化・効率化を支援します。

農業経営資金

農業を営むすべての方に

農機ハウスローン

農機具や軽トラックを急いで買い換えたい方に

スーパーS資金

短期の運転資金が必要になった方に

JA新規就農応援資金

農業を始める方や始めたばかりの方をバックアップ

JA持続的農業応援資金

ベテラン農業者の方をバックアップ

JA飼料用米等対応資金

飼料用米等の生産拡大に取り組む方に

農業近代化資金

認定農業者の方や一定の条件を満たす農業者の方に



農業近代化資金については、利子補給・利子助成内容がJAにより異なる場合があります。詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年2月現在

《金利情報》 平成30年2月20日現在

農業経営資金

変動金利

年**1.00%**

固定金利

年**1.50~2.00%**

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年**1.5%**

(変動金利)